

輸出事業計画

※申請者名：ふらの農業協同組合、品目：たまねぎ

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 平成27年、北海道産のたまねぎが豊作となり、市場価格が下落。今後、国内人口の減少により、需要が減少することが想定される中、これまでの販路だけでは、作況の影響を吸収することが難しくなると考え、新たな販路の開拓のため、同年度から、農協系統組織であるホクレン農業協同組合連合会（以下ホクレン）が主体となって、台湾及び韓国を中心に本格的な輸出を開始。

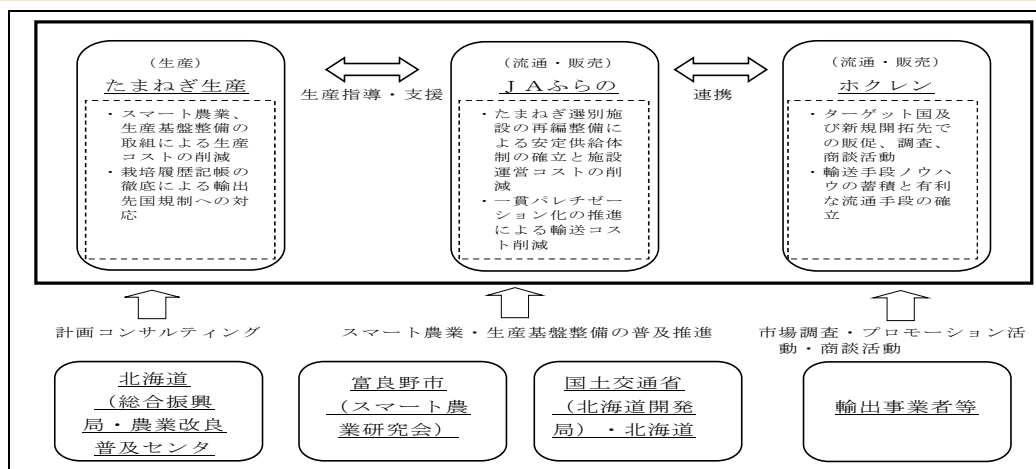
【課題】

- 現状の輸出価格では再生産価格から乖離しており輸出時の価格に見合う生産コストを抑えたたまねぎの安定生産、安定供給体制の懸念
- 台湾におけるクロルピリホス（ダズバン）の規制による障壁
- 輸送業界の規制強化等による流通に係る人手不足と海外向け輸送方法や輸送価格などのノウハウ不足による最適な物流経費の検討不足
- 十分なプロモーション活動等がなされていないためブランド化に伴う安定価格での取引に至っていない。

2. 輸出事業計画の取組内容

- GNSS自動操舵システムの導入等、スマート農業省力化技術の取組みで労働力不足に対応した生産体制の確立と生産基盤の整備を併せた労働コストの削減
- たまねぎ選別施設の再編整備と高性能機械の導入により施設運営経費の削減
- 栽培履歴提出の徹底による農薬等規制の対応とJAふらの農作物病虫害防除・施肥の手引きで不使用とするなどの栽培体系の検証
- 一貫パレチゼーション化による荷役作業の大幅な人員コストの低減と輸送手段のノウハウの蓄積による有利な流通手段の確立
- ホクレンや輸出商社と連携して、輸出先国における市場調査を実施し、北海道産たまねぎのニーズ及び輸出の可能性に対する詳細の把握を実施。その結果を踏まえて、輸出先国における北海道産たまねぎの購買層に向けたプロモーション活動や現地量販店等に対する商談活動を展開し、北海道ブランドの確立による販売価格の向上を図るとともに、海外マーケットにおける“普通を広げる新規性（普通に現地の食卓にある。）”を目指すことで、輸出量の拡大を図る。また、これらの取組と並行しながら、新規輸出先国の開拓も併せて行う。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状 (平成27～31年産5年平均)	目標年 (令和7年産)
輸出額（円）	81,200,000	110,000,000
輸出量（t）	1,767	2,200
輸出先国	台湾、韓国	台湾、韓国、新規国